

教科等研究会（中学校国語部会）
令和2年度 研究活動のまとめ

I 研究テーマ

社会生活につながる国語科教育
～言葉を駆使しながら自ら学び続ける生徒の育成をめざして～

II 研究経過

第1回			第2回			第3回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	人数	場所
7/6	20	矢部中	10/29	嘉島中	山田修平 教諭	1/22	20	嘉島中

III 研究の概要

1 研究の内容

本年度は、「第43回九州地区中学校国語研究大会（以下九州大会）」、「第56回熊本県国語教育研究大会熊本大会」の「書くこと部会」の授業実践を熊本市と合同で引き受けることになった。そこで、本年度は熊本市と合同の研究テーマ「社会生活につながる国語科教育」を設定した。九州大会の視点1「学習意欲のサイクルを生み出す『見通しと振り返り』について」、視点2「考えを深める協働的な学びの場の設定について」、視点3「学習者のメタ認知を支える『思考のキーワード』について」（資料1）を中心に研究に取り組むことにした。

(1) 組織づくり

第1回目研究会では、先ず九州大会の視点「見通しと振り返り」、「思考のキーワード」の共通理解を図った。

その後、部会を「授業部会」、「実践報告部会」の2部会に分け、研究を進めることにした。「授業部会」では、主に九州大会に向けた授業作りを中心に、「実践報告部会」は、三つの視点の授業実践を行った。

IV 研究の実際

1 研究の実際

(1) 実践報告部会

① 実践1「批評文～観察や分析をとおして、判断する～」

「見通し」を持たせるために実際の活動では、まず自分が書きたい「主張文」の型を考えさせ、各自の課題を設定させた。生徒に意欲的に「主張文」を書かせるために以下のA・B・Cの中から一つ選択させた。

- A キーワードを使いながら、「頭括型」の主張文を書くことができる。
- B キーワードを使いながら、「尾括型」の主張文を書くことができる。
- C キーワードを使いながら、「双括型」の主張文をかくことができる。

その結果、出来上がった主張文を見てみると、それぞれの生徒が書いた内容が課題から大きくはずれることがなく、課題を3つの選択制にした成果がみられた。「振り返りシート」（資料2）では、このシートを毎時間活用したことで、学習のスモールステップとなり、1時間ごとに達成したことを自分で確認しながら学習を進めることができた。

「協働的な学びの場」の設定では、「主張文」を班で読み合い、感想を述べたり、交流をしたりことで、達成感や、やる気、意欲を感じた生徒が多かった。

「思考のキーワード」では、これを「アイテム」と呼び5つ以上のアイテムを使って書こうというルールを決めた。ゲーム感覚を持たせて主張文を書か

資料1



資料2

【主張文 振り返りシート】＊最後に集めて評価します。 組番 番

学習の目標
① 自分の立場や考えとともに、それを支える事実や事柄を明らかにして、文章の構成を書ける。
② 書いた文章を読み直し、互いの主張や表現の仕方について意見を交わして、自分の考えを深める。

項目	内容	ポイント	自己評価	身につけたこと・感想
①	・場面と課題の把握 ・行動の理由 ・対話 ・立場の決定 ・別の立場の意見との対話	理由	A/B/C/D	自分の立場を主張するときに、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。また、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。
②	・構成の把握 ・キーワード（接続詞など）	対話	A/B/C/D	自分の主張をより明確に伝えることができた。また、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。
③	・全話の条件の把握 ・キーワード（接続詞など） ・主張文を書く ・三角ロジック	理由	A/B/C/D	自分の立場を主張するときに、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。また、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。
④	・交流 ・感想	理由	A/B/C/D	自分の立場を主張するときに、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。また、相手の立場を考慮して、自分の主張をより明確に伝えることができた。

※学習振り返りシートは、毎時間活用して、大切に取っておくことと学習記録を、これらの生活に活かしていくことと学習意欲を高めることとを目的として、自分自身で記入することを目指す。何回か書き、自分自身で振り返り、自分の考えを深めることができるようにする。また、自分の考えを深めるために、相手の考えを聞き、自分の考えを深めることができるようにする。また、自分の考えを深めるために、相手の考えを聞き、自分の考えを深めることができるようにする。

せる工夫をしたことで書くことに苦手意識をもつ生徒たちの意欲も高まった。また、使ったアイ
50 テムを、○や□で囲ませることで、学習者にとっては文章を論理的に組み立てる方法を学ぶこと
ができ、楽しさにもつながった。

②実践2「思いや感覚に向き合い、考えを確かなものに 意見文」

「見通しと振り返り」を持たせるために「何を学ぶのか」「何を学んだのか」の実感を持たせ
る「振り返りシート」を活用して学習の見通しをもたせた。

55 「協働的な学び」では、下書きの段階で4人班のグループの中で原稿用紙を回し読みし、構成
に関して気付いたことや、参考にしたい部分を付箋に書き出して互いに貼るという活動をおこな
った。その結果、他者の文章を読み、自身の意見文を改善することにつながった。

「思考のキーワード」の活用では、「キーワード」を生徒に提示し、1時間の授業においてど
のような考え方をういたか、ということを意識させ、思考の可視化を図った。

60 ③成果

実践1の授業では、書くことが苦手な生徒が意欲をもって意見文に取り組めるように校内の「ア
ンケート」を資料として提示した。これは、自分の生活に直結する資料であるため、読み取りの
際の意欲や意識が向上し、生徒間の交流も活発になった。その結果、意見文に対する意欲の高ま
65 りが感じられた。また、「何を学ぶのか」「何を学んだのか」の実感をもたせるために、「振り返
りシート」を活用した。その結果、学習の見通しや「何を学んだのか」を自覚することができた。

④課題

「思考のキーワード」の活用に課題が残った。生徒が主体的に「思考のキーワード」に気づき、
意識して使用する段階にはいたらなかった。そのため、日頃から日常的にそれらを使用し、慣れ
70 親しんでおくことで、さらに効果が期待できるのではないかと思われる。また、校内において他
教科の授業と連携しながら、「思考のキーワード」を日常的に用いることが大切であるとする。

(2) 授業部会

①研究授業

75 授業部会では、研究授業の検討をおこなった。事前研究会を放
課後に4回ほど開催した。研究会には、熊本大学大学院教育学研
究科の濱平清志先生を講師に迎え検討会を行った。(資料3)事
前研究会では、教材の開発、ワークシートについての話し合いを行
った。



② 実践「批評文 ～観察や分析をとおして、判断する～」

80 本実践では、以下の力を身につけることを目指した。

- ・ 社会生活における様々な物事や事柄について、客観性や信頼性のある情報を取捨選択し、情報
の発信者として責任ある表現を心がけることができる。
- ・ 目的や意図に応じて、論理の展開を考えることで、様々な考えをもつ多様な読み手を説得できる
85 文章を書くことができる。

本実践での単元を通じた言語活動(単元を通じた課題)は、「新型コロナウイルス感染症が収
束していくのか、再び拡大していくのかわからない今、校内に掲示するポスターとしてどちらが
適切か判断し、批評文を書こう」である。批評の対象として、違う視点から新型コロナウィル
スの感染拡大防止を呼びかける2つのポスターを取り扱う。(資料4)



資料4

「見通し」をもたせる手立てとして、まず、導入において共有した単元のゴール（単元を通した言語活動）と類似課題で書かれた批評文のモデルを提示し、生徒にこれからどのような文章を書くのかイメージをもたせた。

批評文のモデルを読んで、今後の学習の見通しやイメージをつかもう。
ある市で、「マイボトル」の利用を勧めるためのポスターを募集し、次の2点が候補として残った。「マイボトル」の利用を呼びかけるポスターとしてどちらが適切か。

①どちらが優れた批評文だと思いますか？
(A・B)

②なぜそう思いましたか？

批評文モデルA
私はマイボトルの利用を勧めるためのポスターとして、Aが最も優れていると思う。
Aのポスターでは、水滴の形をした大きな絵の中に、さまざまな色のキャップのペットボトルがたくさん入っている。これによつて、いろいろな飲み物のペットボトルを大量に消費したという事実が巧みに印象づけられ、「今年の夏はこれだけ飲みました」というキャッチコピーとくっ合つて、私たちはふだん何気なくペットボトル飲料を飲み、その容器を作るのに大量の資源が消費されているというこまごまではない。Aのポスターは絵と文字の両方によつて、私たちが気付かなかった「事実」を目の前に示してくれる。
これに対し、Bのポスターは、「ペットボトルよりおしゃれボトル」というキャッチコピーからも分かる通り、マイボトルを使うことはおしゃれなことだという印象を与えている。流行に敏感な若い世代の人たちは、ふだんペットボトル飲料を買う機会も多いだろう。このポスターには、そんな若者世代にマイボトルの魅力をアピールすることができるといふよさがあり、その効果も期待できると思う。
しかし、A市がマイボトルの利用を呼びかける理由は「資源保護」であると考え、それをより幅広い世代の人たちに、直接呼びかけるという意味では、Aのポスターが最も効果的なのではないだろうか。

批評文モデルB
マイボトルを使ったと多くの人に思わせるポスターはどれか。その観点から考えて、私はBを選んだ。Bに描かれているのは、おしゃれに敏感そうであるという女性にマイボトルを使っている場面である。また、「ペットボトルよりおしゃれボトル」というキャッチコピーがある。
世の中で流行するものは「おしゃれ」「かっこいい」「かわいい」と感じさせるものである。Bのポスターは、おしゃれからマイボトルを使うよう多くのの人に思わせる可能性を持っている。

③批評文を書くポイントを出し合い、メモしよう。自分が批評文を書くときの参考にしよう。

資料5

また、学びを振り返る手立てとして「学習計画・振り返りシート」を活用した。振り返りの視点として、「学習で学んだこと」や「自分の学び方がどうであったか」「難しかったことや課題として残ったこと」を記入させた。

「協働的な学びの場」としては、個人でそれぞれのポスターの特徴や良さ、価値等を分析した後、同じポスターを選んでいる生徒同士でグループを作り、交流・検討する場を設定した。グループごとの話し合いを可視化し、考えを深めるツールとしてマトリックスを活用した。

「思考のキーワード」では、「比較」を中心に活用した。2つのポスターを比較し、共通点や相違点、それぞれのポスターのよさや特徴、価値等を整理した。また、「自分の考え」と「友達の考え」、「グループごとの分析結果」を比較したり、「はじめの考え」と最終的に書いた批評文を比較した。「比較」の言葉は教師からは提示せず、個人思考や協働的な学び合いの場や振り返りの中で生徒が何かと何かを「比較」することで学びを深めている場面を適宜全体に紹介し、学習用語として認識させていった。

③ 成果

視点1「見通しと振り返り」については、批評文のモデルを示すことで、どのような文章を書くのかイメージできたことに加え、実際に批評文の構成を考え、記述する際にも参考にしながら学習を進めることができた。また「単元計画・振り返りシート」活用することで、ゴールや学習過程の見通しをもって学習を進めることができた。また、振り返りを行うことで、自分の学習を見つめることができた。

視点2「考えを深めるための協働的な学びの場の設定」については、グループごとに違う観点で分析を行うことで、様々な視点からの気づきを共有することができた。また、自分が選んでいないポスターについても気づきを記入させることで、両方のポスターの良さや特徴、価値等に触れながら説得力のある批評文の記述へとつなげることができた。

視点3「学びの質を高める『思考のキーワード』の活用」については、「2つのポスターの比較」「自分と他の人の分析の比較」「はじめの考えと批評文との比較」など、単元を通して「比較」というキーワードを使って学習を進めることができた。

④ 課題

生徒は学習に見通しをもち、意欲的に観察・分析を行い、モデル文を参考にしながら構成を考えて批評文を記述することができた。しかし、読み手にわかりやすく、伝わりやすい表現の仕方について個人やグループで推敲する時間の確保は不十分であった。今後、「書くこと」だけではなく、「話すこと」の単元においても時間を十分に確保し、社会生活につながる表現力の育成を目指したい。

④指導案

50

6. 本時の学習（第3時）

(1) 本時の目標

○観察・分析を交流することを通して、自分の考えを三角ロジックに整理することができる。

55

(2) 本時の展開

60

過程	生徒の学習活動	形態	教師の指導・評価	備考
導入 (5分)	1 単元を通した課題と前時の学習を振り返る。	全体	・単元を通した課題を確認し、前時の振り返りを数名発表させる。	単元計画 振り返り シート
	2 本時の学習課題を知る。	全体	・生徒の発言から課題を設定する。	
<p>課題 2つのポスターの分析を深め、自分の考えを整理しよう。</p>				
展開 (35分)	3 分析したことを交流し、考えを広げる。	グループ	・同じポスターを選んでいる生徒同士でグループを作る。	マトリックス 付箋紙
	<p>発問 マトリックスを用いて、グループで分析しよう。</p>			
(10分)		全体	<ul style="list-style-type: none"> ・マトリックスを用いて交流し、2つのポスターの特徴やよさについて検討させる。その際、グループによって違う観点で検討させる。 ・個人の気づきを付箋紙に書かせる。 	
(15分)	4 グループで検討したことを紹介し合う。		<ul style="list-style-type: none"> ・グループで選んだポスターのどのようなよさや価値を出し合ったのかを紹介させる。 ・別のグループの分析を自分たちの分析と比べながら聞かせ、質問や意見を述べる機会を設ける。 	
	5 これまでの学習を基に、自分の考えを三角ロジックに整理し、根拠となる事実や理由付けを明確にする	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・三角ロジックを用いて、根拠と理由付けを記入させる。 ・三角ロジックのそれぞれの項目を板書に掲示し、整理する際の手がかりにさせる。 ・活動が進まない生徒には教師との対話の中で根拠と理由付けのつながりを見つけさせる。 	ワークシート (三角ロジック)
<p>考え：選んだポスター</p> <pre> graph TD A[考え：選んだポスター] --> B[根拠：選んだポスターの具体的な特徴] A --> C[理由付け：分析・交流を基に考えたこと] </pre> <p>(評価基準) ・それぞれのポスターの分析を基に、選んだポスターとその根拠や理由付けを書いている。 【思①】/ワークシート</p>				
まとめ (5分)	6 本時の振り返りを行う。	個人		振り返りシート
<p>発問 グループや全体での話し合いが自分の考えにどう生かされたのかを振り返ろう。</p>				
<p>・数名発表させ、次時へとつなげる。</p>				

100